

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月29日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300823
法人名	有限会社 サフラン
事業所名	グループホームヴィラサフラン
所在地	鹿屋市郷之原町12584番地 (電話) 0994-42-7220
自己評価作成日	令和2年2月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年2月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりした時間を過ごしながら今までと変わらない暮らしの中でその人らしく安心して、穏やかな生活が送れるように、気配り、目配り、心配りをができるように努力しながら、日々の介護に取り組んでいます。ご本人、ご家族が最後まで変わらない環境で生活ができるようにとご本人、ご家族の意向に添い、終末期は訪問診療、訪問看護と医療連携を行ない、ご本人が苦痛を感じる事がないように主治医、訪問看護と医療連携を密に行い看取り介護を行なっています。又、ホームを活用した共用型認知症対応型通所介護のご利用者様のご利用を頂き、地域に開かれた認知症ケアの啓蒙啓発に努めています。此れまで、併設の地域密着型デイサービスを活用し、四季の催し、その中で地域の住民、関係者とのふれあいをとうして地域密着をふかめながら、参加者への認知症の理解や、認知症ケアの啓発に努めています。高齢者配食サービス事業も併設し、この機能を生かして、朝、昼、夜の食事の提供を受け、職員の介護に要する時間を設けると共に労務負担の軽減、食に関する栄養士の栄養管理も行なっています。

ホームは、のんびりと本人らしい暮らしの実現を理念に掲げて実践しているため、センサー類は使用せず職員の言葉かけや自然な見守りを心がけている。玄関外や敷地内での喫煙習慣がある方への配慮や外出傾向の方がおられるが、安全に留意し本人の行動を制止することがないよう配慮しつつ自由に行動していただいております。職員が目配り気配りし本人主体に暮らし施設などせず玄関はいつも解放されている。また 身体的拘束等の適正化のための委員会があり、月例会で研修を実施、会議は、3ヶ月毎に開催されている。

運営に関しては、代表者や管理者が月例全体会議や隔週のカンファレンス、また、必要に応じて個人面談を行い職員の意見、提案を聞く機会を設けている。フードサービス事業を行っているため、職員が調理を行う時間が少ない、そのため、職員は理念を意識し天候や本人の体調を考慮しながらなるべく戸外を散歩したり、日光浴し気分転換ができるよう取り組んでいる。

サフラン農園では、季節の野菜の収穫の時期に利用者と職員と一緒に土にまみれ収穫を楽しんだり、食事やおやつ作りに活用している。利用者は、農業経験の豊富な方も多く手際が良く、収穫時期になると利用者の方から意欲的な声が上がります。職員は触発されている。庭の一角には、柿の木もあり、吊るし柿にして食するなど楽しみの一つになっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で暮らしの中で自分らしく暮らし続ける事を支援して行くサービスとして事業所独自の理念、「のんびりした時間を過ごしながら、今までと変わらない暮らしの中で、お一人、お一人の思いと家族の触れ合いを、大切に心のこもった介護を目指します」を作り上げて、職員一同理念を共有して実施につなげている。	利用者がのんびりとした時間を過ごししながら、自分らしい暮らしの実現を目指すという理念は、共有スペース、パンフレット等に掲示され、月例会などで触れている。また、毎年度、事業所のスローガンを掲げ理念とともに職員全員で共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催の創立記念、秋祭り年末行事の餅つき、そば打ちには地域の皆様、ご家族を招待している。ボランティアも受入れている。「小学生のお役にたちます運動」中学生の職場体験、大学生の研修、夏休みの学童保育の小学生積極的に受入れたり、隣設のデイサービスとの交流も積極的に行なっている。事業所もオープンにして地域の一員として交流している。	代表者や職員は、地域の総会や清掃活動、防災訓練などに参加し協力関係を築いている。また、ホームの行事（創立記念日、敬老会、秋祭りなど）に地域の方々を招待し、秋祭りでは、参加者にホームの取り組みなどをスライドで紹介するなどして利用者の暮らしぶりを伝え地域と交流ができるよう支援している。幼稚園児の交流やボランティア、夏休みの学童保育、職場体験の受け入れなど毎年行い、隣接のデイサービスや共用型サービス利用の方の対応や地域交流にも熱心に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	毎年開催しています7月の創立記念祭、敬老会、10月の秋祭りは地域の皆様に招待したり、秋祭りはスライドショーで年間の活動の状況を見て頂いて地域の皆様の認知症の理解を深める支援に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議毎に、ご利用者様、ご家族様のご希望と意向、サービスに評価への取組状況などについて報告を行ない、委員の皆様からの素直な意見などを、積極的に頂きながら話し合い、そこでの意見をサービス向上につなげている。	会議開催の報告をサフラン便りに掲載して利用者、家族に意識づけを行い会議への参加を呼びかけている。出された意見は、月例会やカンファレンスなどで話し合い、サービス向上やケアの見直しなどに活かすよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関しては市の担当者、包括センター各居宅支援事業所と日頃から連携を密に取り、事業所の状況等、事故が起きたら直ちに相談して指導、助言を受けながらサービス向上強につなげている。	市担当者や市社会福祉協議会、福祉事務所職員などの協力体制があり、電話や面談、メールなどで情報を共有し相談や助言などを頂戴して相互に連携し、利用者の暮らしを支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会設置をして、月例全体会議での研修やグループホームでのケア会議で、すべての職員が禁止となる具体的な行為を理解している。今まで身体拘束の事例がなく身体拘束ゼロを指針としたケアに取り組んでいる	制度改正時に指針が整備され、会議は、3ヶ月毎に開催され身体拘束、権利擁護、虐待防止など多岐にわたり適性化に向けて構成メンバーで話し合われ、身体拘束等を行わないことについて検討されている。喫煙をされる男性利用者や外出傾向の方などがおられるが玄関はいつも解放され自由に行動し職員は見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や、社内研修会等で虐待防止について学び、また身体拘束委員会を設置して虐待防止に向けて取り組みを行なっている。虐待については管理者や職員は理解周知できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などを通じて制度については学ぶ機会があり理解し活用できるように支援している。現在1名の利用者様が成年後見人の支援を活用されている。今後も必要な方に対しては活用できるように引き続き支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解消の解除又は改定の際は、ご利用者様やご家族様の不安や疑問点を聴取し、契約書、重要事項説明書を元に十分な説明を行ない、理解、納得して頂いた上で手続きを行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の契約時に苦情・意見・要望などについて重要事項の説明書に基づいて説明し、入居後はご利用者様ご家族から直接面談で聴取し、運営推進会議に於いて、意見、要望を表せる場を設け、それらを運営に反映させている。お気づき箱も玄関に設置している。	管理者は、契約時に、相談や苦情などを遠慮なく出せる「お気づき箱」の設置を説明しているが、利用者や家族からは、直接面談や電話などで相談を受けることが多い。出された意見は、月例会や運営推進会議などで話し合わせ、サービスの質の向上や対応方法について検討や見直しをしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例全体会議、月2回のケアカンファレンスの中で意見や提案が自由にだせる機会が設けてあり、代表者や管理者は、運営に関する職員の意見を反映させている。	夜勤専任職員の配置や看護師、介護職の採用があるなど、共用型デイサービスを利用される方にも手厚く介護が提供できるよう取り組んでいる。離職率も低く職員の関係性が良好である。職員は、調理の負担が少ないため利用者と触れ合う時間を重視するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内全体の管理者会議を行ない、代表者も職場や職員の状況を把握している。毎月1回の社内全体会議においても、直接思いを伝える機会があり、各自が向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内は回覧で周知できるように、職員の意見も入れて積極的に参加を働きかけている。研修後は研修報告書を作成して回覧して、全体会議で研修発表を行ない、社内研修に活かしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿屋市地域包括センター主催の研修会、鹿屋市集団指導等において、他施設の住協などを学びサービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をして頂いて、その際にご本人、ご家族の意向、ご希望について聞き取り、理解、納得して頂き、課題解決に向けてのサービスが提供できるように努力している。又、時間をかけながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学して頂いて、ご家族の相談事、困り事、希望や思いを聞き、施設の理念の説明を行ない、納得理解していただき、サービス内容の確認、今後の方向性などについて話し合いを行ない、理解していただきながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供により内容の確認を行ない、継続しながら「その時に必要としている支援」を行ない、必要に応じてサービス提供の内容を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と過ごす時間を多く持ち、過ごす時間の中で喜怒哀楽を共感しながら、人生経験等を伺う機会も多く、その中で利用者様から教えて頂く事柄も多く、共に支え合う関係を気づいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を頂きながら、ご本人と一緒に支えて安心した生活が送れる支援、本人、ご家族との絆を構築するために、ご家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いを尊重して地域の方々との関係の継続や隣設のディサービスに出かけ馴染みの人達との交流を行なっている。日課の中で散歩に出かけたり、近くのスーパーに買い物に連れて行って馴染みの人や場所や関係が途切れないように、支援に努めている。	行きつけの美容院に家族と外出される方や受診の帰りに買い物や外食、墓参りをされる方がおられたり、毎週家族宅に外泊される方がおられる。また、知人の来訪があったり、職員が本人に他県に住む家族に電話での声の便りを支援している方もあるなど馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い助け合い、支え合いながら暮らせるように支援している。グループワークや外出時の助け合いをしながら季節を楽しんで頂けるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の意向で2名の利用者様を看取り、ご家族と一緒に自宅に帰られた。契約終了後もご家族のその人を感じる気持ちを理解しながら思い出を語りあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する中で本人が望む暮らしの自己実現に向けて意向を確認している。課題が発生した場合においても、日常の会話や行動でくみ取れるように関わりを持っている。ご家族と共に本人の思いを共有し、本人らしく暮らせるように、ケアカンファレンスや担当者会議や面会時に話し合っている。	言葉での表現が難しい方などは、日々の暮らしの中で本人の言動などを参考に職員が共有を図ったり、家族に聞くなどして本人の思いや意向を把握するよう努めている。カンファレンスや担当者会議では、本人の思いを踏まえニーズを捉え話し合いチームケアにて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居予定前にご本人、ご家族、各関係機関から情報提供を頂き、本人の成育歴、生活歴既往症や現病歴を詳細に情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今の生活環境の中で個々の思いのまま時間を過ごされている。有する能力等の本人の意向を尊重しつつ行動や身体状況、精神状態の現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎の評価を行ない次の計画更新に活かせるように課題について本人、家族、ケアカンファレンスの中でサービス内容を確認し、今後の方向性を話し合いケアプランに反映させている。	ケアチェック表を活用し、アセスメントや分析をして、介護計画書を作成している。モニタリングは、3ヶ月毎に実施、概ね1年毎に計画の見直しなどをおこなっている。遠方の家族には、計画の説明を行い同意を得ている。職員は、定期的なカンファレンスや担当者会議などでケアの方向性などについて意見交換している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録として24時間の介護の実践・結果・気づきを記録し職員間で情報を共有、実践しケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型ディサービスを併設している。現在2名の方がご利用されている。事業所独自のサービスで台風時は緊急避難の安全確保等柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の慰問でハーモニカ演奏や舞踊等、近隣の小学生や中学生、大学生との交流等も積極的に受入れて地域資源の関わりの中で、豊かな暮らしが楽しむことができるように支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医制を取り通院の支援を行なっている。ご本人の身体状況の変化時にかかりつけ医の受診を行ない納得できるように主治医との連携を行ない適切な治療が受けられるように働きかけて支援をしている。	訪問診療や外来受診ではあるが、本人や家族が希望するかかりつけ医である。この2年、入院はなく健康状態は安定しているが、体調不良などの急な受診なども時にあり、職員が医療機関と連携を図り、家族の協力を得て適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々関わりの中で些細な変化に変化に気づける様に行動の把握に努めている。気分不良や身体状況の悪化時は看護師が中心となり状態の把握に努めている。必要に応じて訪問看護師に相談して指導を受けている。病院も早期受診を行ない悪化防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ここ2年ほど入院されたケースはない。入院に際しては情報提供を積極的に行い、病院との連携を細目にとり、入院生活が少なくて住むような働きかけを行って行く予定。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を入居時ご本人、ご家族に説明している。終末期は家族に重度化の指針をその都度説明して同意を得ている。、早い段階から本人、家族と話し合いを行ない、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し主治医、グループホーム看護師、介護職員、訪問看護師と共にチームケアの支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」にて契約時に説明、同意は得ているが、これまではその都度の意思確認が文書で取り交わされていなかったが、「看取りについての事前確認書」を作成しているため今後は、活用を検討している。職員は本人や家族の希望に寄り添い、納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の緊急時急変時の対応についてはカンファレンス、月例会議などを通して職員全員の共通認識が出来ている。急変や事故発生時の対応は定期的に話し合い、職員全員が実践力が身に付くように今後も話し合いを継続していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火管理者による消防計画に基づき毎年6月に自主訓練、12月消防立会いの訓練の2回行なっている。また近隣の居住者に災害時の協力要請をお願いして快く承諾を頂いている。また地域の防災関係機関へも日頃から働きかけている。</p>	<p>年2回の避難訓練は、運営推進会議と同時に実施、地域の協力も得られており、夜間想定で行われ町内放送で訓練実施の案内、協力を呼びかけている。夜間帯は、隣接のフードサービスの職員やホームの職員の協力体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーを損ねることがないように成育歴、生活歴をくみ取り、また周辺症状などの状態を受容、傾聴し人格を尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行なっている。	入職時や定期的な研修にて接遇マナーの知識や技術を研鑽し、利用者や家族などの尊厳を否めるような言動がないよう心がけている。また、個人情報の取り扱いにも注意を払いボランティアの方などに説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の支援の関わりの中で本人の思い、意向を受け止め自己決定の表出ができるように働きかけたり環境作りの支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づいて一人ひとりのペースを大切に、ゆっくり、のんびりとその人らしく本人の意向、希望に添い支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々それぞれに、自分らしく自分で身だしなみやおしゃれを楽しまれている。自分の意思が伝えられない方はご家族の意向でおしゃれを取り入れて満足して頂けるように支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆様の楽しみな時間となっている。季節を感じる事ができるように夏の外でのバーベキュー、年末の手作り蕎麦作り、大みそかのすき焼き鍋を皆様一緒に囲んで嗜好を取りいれて楽しんで頂いている。下膳もできる能力を活用して片付けをお願いしている。	キザミ食やミキサー食など食事形態の工夫があり食事介助されている。下膳などの片付けを手伝う方が多く、餅つき、そば打ちなどは恒例行事である。ホームの農園では、ジャガイモや落花生、大根、夏野菜などの四季の旬の野菜が採れる。地域からの差し入れも多く料理に活用されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握、栄養バランスや水分量は1日を通じて確保できるように記録用紙に基づいて職員全員が把握し共有支援している。それぞれの病歴や排泄習慣パターンを知り支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	健康状態を維持するために毎食後口腔ケアを支援し口腔内の清潔に努めている。歯ブラシやスポンジブラシを使用し介助や本人の力も活用、又月1回の歯科衛生士の口腔内チェックと歯ブラシの指導を受け口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを知り、排泄記録で排尿誘導の声かけを行ない、尿意、便意をしっかり活かしている。排泄の自立に向けた支援を行なっている。	職員は、一人ひとりの排泄のリズムを把握して、定時やタイミングをみてトイレ誘導したり、おむつ交換をして清潔が維持できるよう支援している。ポータブルトイレは居室には置かず夜間帯に準備し使用して頂いている。また、スムーズにトイレ移動ができるよう利用者に合わせた声かけを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事の提供や入浴や散歩、レクリエーション運動で体を動かしている。便秘になる事で周辺症状の増悪を認める為排便コントロールは個別に取り組み便秘をしない予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴が楽しめるように、爽快感を感じられるように、また清潔感を保ち夜間は良く眠れるように入浴を毎日支援している。入浴は順番等についても配慮している。	男性から先に順番よく入浴するとスムーズに入浴ができることから声かけを工夫している。ほとんどの方が毎日入浴を楽しんでおり、本人の希望にてデイサービスの大浴場で温泉気分を味わったり、檜風呂を楽しむ方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて起床、就寝を支援して生活のリズムを整えている。夜間は良く眠れるように採光に配慮したり、トイレ誘導のタイミングを図りながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康維持の為に処方された薬は確実に飲めるように支援している。薬の変更時は薬の目的、体に及ぼす影響、効果など職員全員で共有し支援を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅から位牌を持って来て毎朝ご飯、お茶を供えて供養が日課になっている。自分で冷蔵庫の管理、喫煙、黒砂糖、食パン、など嗜好品の買い物を楽しむ事となっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の利用者様ご希望に添って、毎週の外出、ご家族との外出、スーパーに買い物に出かけたり、季節の花見見学や初詣に出かけている。気候の良い季節は毎日散歩に出かけ地域の方との触れ合い等の支援をしている。	天候や体調を考慮し、できるだけ外に出て外気浴や散歩をしたり、犬と触れ合ったり、コスモス見物や桜見物をするなどして季節を感じたりしている。また、受診の帰りに家族と買い物や外食に行かれたり、初詣、春や秋の花見見物、農園へ収穫に出かけるなども利用者の楽しみになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理は1名自己管理されている。他8名の利用者様は出納帳で管理し、毎月写しをご家族様へ送付している。ご家族の希望時はその都度確認して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は自由にかけるように、希望時に応じて対応を支援している。ご家族からの電話の取次ぎ対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>外観は緑に囲まれ、庭先の犬も飼われ静かな雰囲気である。玄関は家庭的で入りやすく、ホーム内は和室の広々とした雰囲気である。不快な音、採光はない。ソファ、テーブル、ウッドデッキ等どこでも寛いで頂けるような居心地良く過ごせるような工夫がしてある。</p>	<p>玄関や共有スペースに今年度の法人のスローガンや理念が掲示され、玄関に季節の生花が活けてある。居室は、フロアと並行しており、中央に畳スペースがあって炬燵でテレビを観ながらゆっくりと過ごすことができる。キッチンから食堂やリビングが見渡せ広々とした空間である。ウッドデッキは洗濯物を干したり、バーベキューをしたりと活用されている。掃除が行き届いており清潔感のある広々とした共用空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個々の利用者様同士での時間を過ごされている。のんびりと皆様で歌を唄ったり、テレビ鑑賞やお茶をお互いに飲んだり入浴後のコーヒを楽しんだり思い思いに過ごせる居場所となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用者本人の使い慣れた家具や寝具等馴染深い物等本人が居心地良く安心して過ごせるように、居室の環境作りを工夫して落ち着いた時間を過ごされている。</p>	<p>使い勝手が良いように収納家具を工夫するなど個性あふれる居室となっている。先祖代々の位牌を大切にし毎朝自分で、ご飯やお茶を備え手を合わせるのが習慣の方がおられたり、介護用コミュニケーションぬいぐるみや使い慣れた馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内は自由に動ける広々と過ごせるスペースがあり、ウッドデッキも自由に出入りされている。居室の目印等個々の能力に応じて自立支援を目指している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない